

原動力は親への感謝

○：団塊の世代が75歳以上で孤立してしまう人も多
上の後期高齢者となる20
25年まで10年弱。国は病
床削減の意向を示している
が、「病院から自宅に帰せ
ば孤立してしまう人も多
い。高齢化率が高い小田原
ならなおさらのこと」と、
配置も大変になる。協力的
内からにじみ出る穏やかな
表情がにわかに曇る。「今
旗振りをしていかないと」。

人物風土記



●小田原医師会の新会長に就任した

渡邊 清治さん

渡邊内科クリニック理事長 59歳

会長に就任して1カ月。待
つたなしの高齢問題に、さ
もカルテに記入するのは
「人間全体を良い方向に導
くのが僕の役割。体調を崩
すにはさまざまな要因があ
る」と考えるから。「患者さ
いもなかった高校時代、両
親から受けた言葉をきつか
けに医者を目指した。だが、
その思いは漠然としたもの。
「勉強も自信がなかった」と
いう18歳に道は険しく、「勝
てくれた亡き両親を語る
負事は苦手」というのんび
りした性格も手伝って受験
は全滅した。それでも失敗
の悔しさこそが奮起の糧と
なり、「今の実力では2年間
が必要」と両親に浪人生活
を懇願。2浪の末に医学部
に合格した。「どん底から這
い上がる負けん気は強かつ
たかな。挫折を味わったか
らこそ人間味が、横顔に
あふれている。」

○：病状や処置に加え、
「人の生活の一部を担当して
いる医者は一生勉強」と涼
しい顔で、「死ぬまで引退は
ないかな」と微笑んだ。